

▶ 第3章

北朝鮮の新型コロナ対策と軍事、経済

聖学院大学 教授

宮本 悟

【ポイント】

- ▶ 北朝鮮は、2020年12月現在でも新型コロナウイルスの感染者が1人もいないとWHOに報告されている数少ない国の1つである。実際に、北朝鮮では新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対して、世界でも類を見ない厳しい対策をとってきた。早期から国境を封鎖し、ウイルスの流入を防いできた。外国人の隔離や濃厚接触者の隔離もすぐに始まった。濃厚接触者は接触があっただけから40日、外国人や感染が疑わしいものは30日の隔離が要請された。
- ▶ 北朝鮮の厳しい新型コロナウイルス対策は、貿易や経済にも影響を与えたはずである。特に中朝貿易は20年10月には、前年同月比で99%も落ち込んだ。平壤に比較的近い南浦港は閉ざされて、貿易が機能していることが確認できるのは陸上では丹東—新義州間、実際にどれだけ飛んでいるかは分からないが、北京—平壤間の定期航空便だけである。
- ▶ 北朝鮮は、厳しい防疫体制の中でも軍事訓練や軍事組織の再編成によって軍事力強化を進めてきた。ただし、軍事訓練は2—4月までであって、その後は報道していない。とはいえ、軍事組織の再編成によって、軍事力の強化は続けられている。ただし、核兵器や弾道ミサイルの実験は3月29日に「超大型ロケット砲の試射」を実施したのみである。軍事パレードに新型ミサイルが登場したとはいえ、その進展は「経済建設と核武力建設の並進路線」を推進していた13年3月—18年4月に比べれば緩慢である。



注目データ

北朝鮮における累積PCR検査者数と累積隔離者の推移

